

四谷の

千枚田だより



第 274 号



今年も 案山子をやってきた

便局、千枚田案内看板、新城市鳳来寺山自然科学博物館、奥三河観光協議会、古民家カフェ「たてば」、八雲だんご直売店ほか

山子のテーマを聞くと「千枚田にも二ホンジカやサル、イノシシが出て困っている」と聞き、メンバーの発想から写真のようにユニークな案山子になった「そうだ」。

絵画コンクール作品大募集
テーマ：四谷の千枚田の「自然」や「農作業風景」、「体験学習」など、自由に描いてください。

第九回「四谷の千枚田」絵画コンクール（主催 鞍掛山麓千枚田保存会・東三河郵便局 後援 新城市、新城市教育委員会、新城市観光協会、奥三河観光協議会、東愛知新聞社）

を実施します。応募対象は小学生・中学生。受付期間は八月一日～九月三十日。入賞者には本年度新米・鳳来牛入りハンバーグセット・クオカード（千円分）・五平餅セット
問い合わせはNPO法人国内産米の粉伝統食文化推進ネットワーク
<http://kokukome.com/>
☎ 0532-29-0808
チラシ・応募ハガキは東三河管内郵

愛知県新城市
四谷の千枚田

第9回

絵画コンクール

作品大募集 2026

受付期間 令和8年 8月1日～9月30日

テーマ 「四谷の千枚田」 四谷の千枚田の「自然」や「農作業風景」、「体験学習」など、自由に描いてください

応募対象 小学生・中学生

応募方法 専用の応募はがき、もしくは郵便はがき（官製はがき）にてお1人1枚、ご応募ください
①東三河郵便局店頭 ②四谷の千枚田案内看板前③八雲だんご直売店他

審査 10月中旬以降に鞍掛山麓千枚田保存会、東三河郵便局が応募者の中から入賞者を選出、NPO 国米ネットホームページ上で発表

主催 鞍掛山麓千枚田保存会、東三河郵便局

後援 新城市、新城市教育委員会、新城市観光協会、奥三河観光協議会、東愛知新聞社

入賞商品 本年度新米・鳳来牛入りハンバーグセット・クオカード（1000円分）・五平餅セット（今年から参加賞はなくなります）

ご応募いただいた全ての作品は返却いたしません。また、受賞作品に限らず全ての作品の使用権は、主催者と NPO 法人国内産米の粉伝統食文化推進ネットワークに帰属するものといたします。主催者と協賛社が作成する出版物、広告媒体、ホームページ等に作品と学校名・学年及び氏名を無償で使用させて頂く場合がありますのであらかじめご了承ください。
当 NPO 法人ホームページにて概要と展示日程を掲載しております。

NPO 法人国内産米の粉伝統食文化推進ネットワーク
☎ 0532-29-0808 国丸八製菓内
(当 NPO 法人ホームページ： <http://kokukome.com/>)



七月四日、隣むらの設楽町津具から四体の案山子と四頭のニホンジカの♂が軽トラのボディに積み重ねられてきた。

現場に到着した案山子たちは「チームTAKO」のメンバーにより、手際よく化粧や着付けをされて次々に設置されていった。訪れた観光客はリアルと大喜び。今年の案

一見：農家の年寄りが一服に「しし汁」を煮ながら、串だんご（八雲だんご）を食べているところへ鉄砲担ぎが通りかかった。百姓と猟師はシカを追っ払うには竹ぼうきを振り回すのが一番だでノン…とお互いに笑いこけている…そんな、イメージが膨らむ。

チームTAKO…愛知県設楽町津具地区を拠点とする住民有志の仮装パフォーマンスチームで、テレビ番組「全日本仮装大賞」に連続二十回出場

の常連として知られ、地元を元気にしたいという思いから、仮装大会での技術を活かした精巧な「リアル案山子」の制作やイルミネーションなどの地域活性化活動を行っている。

今号、一面に掲載した「四谷の千枚田絵画コンクール」、「リアル案山子」は、丸八製菓（八雲だんごの鈴木先代社長（会長）が四谷の千枚田に魅了され、末永い保存継承の願いを込め、耕す農家に少しでもお役に立てばと千枚田五平餅（古米）の開発、販売を手始めとした数々の支援の一環であり、息子の社長、専務も先代の意思を引き継ぎ、多岐に渡り、地味にご支援いただいていることを広くお知らせ、ご理解いただければ、とっても嬉しいのです。

なお、丸八製菓、チームTAKOはともに「四谷の千枚田地域振興協議会」の会員としてご協力いただいております。

気候変動

「喉元過ぎれば熱さ忘れる」

昨年は統計以来(明治二十六年)最も高い記録的な猛暑となった。四月、五月においても夏日が観測されその暑さも限界に近い猛暑日が続き、軽い熱中症にかかったり、その対策に苦慮した。なお、国内最高気温は群馬県伊勢崎市で八月五日に四十一・八℃が、新城市でも七月六日に三十七・三℃を記録。この値は観測値であり、炎天下では「うだる暑さ」を通り越した「焼ける」日々が十一月まで続き、急に寒くなった。昨年は夏と冬の二季で春と秋がなかったような年でもあった。

田んぼの稲も平地では高温障害による白化現象の発生などで減収が大きかったが、千枚田は湧き水に依存、小さなだんだん田んぼのため、かけ流しなどで対処したため、大きな被害は免れたし、台風が来なかったこともあり、まあまあであった。今年も近年続いた記録的な高温傾向もなく、平年を下回る日が続き、六月末まで「こたつ」のお世話になったし、七月七日、今もエアコンを暖房に「たより」を書いている。

また、今年も台風の当たり年か、発生数は七月七日現在、すでに十個と、平年の約二倍のハイペースで、そのうち、三個が列島に大きな影響を与えた。天気も梅雨期らしく雨の日が多く続いている。今もニュースで九州、四国では「線状降水帯発生」と注意喚起が報じられている。

八日、気象庁は九州北部・中国・近畿地方が梅雨明けしたと発表。

皆んなで柏餅

六月二十八日、連谷明朗クラブは連谷会館においてテーマコミュニティ「柏餅」を楽しんだ。

丸地光世会長は「皆さん、今日はお集まりいただきましてありがとうございます。今日は男の人は公民館の庭の掃除、女の人は手作りで美味しい柏餅がたくさんできました。昔の母ちゃんの味です。よく味わって食べてみてください。それでは、今から試食会を始めます。と挨拶。参加した会員(男性八名、女性十五名)は柏餅を肴に「昔はあつた：こうだった：」と井戸端会議に大盛り上がりであった。

柏餅の由来：江戸時代に武家社会で誕生した。柏の葉は新芽が出るまで古い葉が落ちない(代が途切れない)という性質から、子孫繁栄や家系存続の縁起物として端午の節句に定着。柏餅文化の地域性は、東日本は柏餅が主流で、西日本は柏の木が自生しにくく古くから伝わる「ちまき(笹で包んだもの)」を食べる文化が主流、また、北海道は「べこ餅」と呼ばれる独自の葉の形をした餅を食べる習慣がある。東日本は「柏の葉」を使用。中身は「こしあん」や「粒あん」が定番。西日本は「サルトリイバラの葉」を使用。中身は「みそあん」が好まれる。

初節句の鯉のぼりは少子化の影響で見られるのは少なくなったが昭和四十年代頃は長男誕生の証として「登り旗」や「鯉のぼり」、「吹き流し」があつちの屋敷、こつちの庭にと、賑やかに見られた。初節句における鯉のぼりは「外かざり」、兜や鎧は「内飾り」と呼ばれ、



両方を飾ることで家の内外が平和に：という意味合いがある。
この地方では初節句(長男)の母方が「のぼり旗」に加藤清正の虎退治や牛若丸などをモチーフに描かれ、願いを込めて贈られてきた。

初節句には母方は勿論、親戚縁者、向こう三軒両隣に一尺(三十センチ)に余る大きさの柏餅三個をセツトとして海老の玉置(菓子製造業)に注文し、配る。配られた縁者は、その柏餅が鯉のぼりの請求と受け止め、それ、相当なものを贈る習わしがあつた。なかには三軒も五軒も柏餅を貰っちゃって、お祝い金でも「馬鹿にならん」と、うれしい悲鳴が聞こえてきたりもした。昭和だ。そうそう、写真の右側五人は本物の明朗クラブ(旧老人クラブ)正会員で、どつしり座っている。真ん中辺りの二人と椅子に腰かけて携帯をいじっている二人が古希近い「棚田っ娘」で、まだ、おぼっこいのか？固まっついていないのか、椅子を頼りに、痛い痛い：が口癖になりつつもある明朗クラブ予備軍？(笑)。

直払い生産活動

中山間地域等直接支払制度四谷集落協定(村雲伸一代表)は七月四日、活動事業として農道、水路、法面及び周辺林地等の草刈りを実施した。

研修受け入れ

○五月二十九日、全国(女性部東海ブロック)の視察対応約三十五名(愛知東幹部、女性部役員含む)
○六月十九日、清須市商工会女性部三十五名の視察対応

行 令和八年 七月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
文 責 小山 舜二